

未来へ ～つなぐ～

「“ちば”共創都市圏」の確立を目指して

1. はじめに

千葉市は、成田空港から約30km、東京都心から約40kmという恵まれた立地条件にあります。また、バランスの良い職住環境とともに県内最大の商圏を有し、圏域における、中心的な拠点都市です。

千葉市以東以南の地域では既に人口減少が始まっており、このままでは周辺エリア全体の活力が低下する恐れがあることから、本市が商業の中心・就業の場としての機能を発揮し、圏域経済をけん引することで、「東京」でも「地方」でもない新しいライフスタイルや価値観を有する圏域、「ちば」共創都市圏の確立を目指しています。

その取組みのひとつとして、地域連携の促進や交流人口の増加など、都市の成長をもたらすストック効果が期待される社会資本の整備を進めています。

2. 都市の成長をもたらす道路整備

本市の幹線道路は、湾岸地域などの国道を中心に交通渋滞が見受けられ、都市の成長の阻害要因となっていました。

そこで、湾岸地域に集中している渋滞を緩和させるため、国直轄事業として国道357号千葉地区の6車線化や市役所前交差点の地下立体化等を行うことで、交差点で発生していた渋滞が緩和し、旅行速度が1.5倍に上昇するなど大きな整備効果が見られたところです。

この効果をさらに拡大するため、その延伸部で主要渋滞箇所が連坦している蘇我地区についても現在事業中であり、千葉地区と一体となって、輸送時間や通勤時間の短縮による生産性の向上が期待されます。



写真-1 国道357号市役所前交差点付近【整備前】



写真-2 国道357号市役所前交差点付近【整備後】

また、市内の幹線道路には、いまだ多くの未整備区間がありますが、「ちば」共創都市圏の形成に大きく寄与する国道や隣接市と接続する道路整備を重点的に進めています。

今後、千葉市が発展していくためには、これらの事業に加えて、既存の高速道路を有効活用した

千葉市長 くま がい とし ひと
熊谷 俊 人



新たなインターチェンジや、国際拠点港湾である千葉港の港湾機能及び都市機能強化等に伴う交通需要に対応するための、湾岸地域における新たな自動車専用道路などの検討も必要と考えています。

3. 公民連携による海辺のまちづくり

本市は、港湾区域面積全国1位の千葉港に面し、旅客船さん橋があり市民の親水空間である「千葉みなと」や、総延長4.3kmで日本一の長さを誇る3つの人工海浜を有しています。これら本市固有の優れた地域資源である海辺の魅力をさらに高めるために公民連携によるまちづくりを進めています。



写真-3 みなとオアシス登録記念モニュメント除幕式

まず、「千葉みなと」では、民間活力を導入して整備した旅客船ターミナル等複合施設「ケーズハーバー」を代表施設とする9施設が、平成30年3月に「みなとオアシス千葉みなと」として国土交通省の登録を受けました。その運営は、施設所有者や管理者、旅客船社や近隣事業者などで構成される「千葉市みなと活性化協議会」が担い、

エリアの賑わいづくりを展開しています。

また、我が国初の人工海浜「いなげの浜」を擁する「稲毛海浜公園」では、公園の持つポテンシャルを最大限に活かし、より魅力的で賑わいのある場となるよう、民間事業者との連携により「施設リニューアル整備・運営事業」に取り組んでいます。具体的には、市内外を問わず多くの方に年間を通して海を楽しんでいただけるよう、白い砂浜、海へ延びるデッキ、グランピング施設、温浴施設の整備や大人も楽しめるリゾート感あふれるプールへの改修などを行う予定です。

4. おわりに

先人から引継いだこの豊かな地域社会を未来につないでいくためには、圏域のつながりだけではなく、世界中の多くの人々とのつながりも大切にしていきたいと思っています。

1年半後には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、本市は、オリンピック3競技、パラリンピック4競技の会場となっています。

また、来年2月には、一般社団法人全日本建設技術協会主催の建設技術講習会が千葉市内で開催される予定です。

ぜひ、この機会に、千葉市にお越しいただき、「東京圏」にありながら、ひと味違った“ちば”の魅力を感じていただければ幸いです。

皆様のお越しをお待ちしております。